

令和 8 年度

「運営に関する計画」

大阪市立喜連東小学校

令和 8 年 4 月

学校教育目標

感じ、考え、確かで、豊かに表現しようとすることを通して、共に分かり合い、高め合う子どもを育てる。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○安全、安心で楽しい学校生活について

前期(2022～2025年)の本校の中期目標について、令和7年度最終の学校アンケートで「学校へ行くことは楽しい。」と肯定的に感じている子どもの割合は80%であった。具体的に、学校へ行くことが楽しいと感じる中身は、「友だちと一緒に活動する」ことや「友だちと語り合う」ことが中心であった。本来、学校での活動や学習に「楽しい」と感じる子どもを増やさなければならないという本校教職員の総括をもとにして、今後は学習活動や体験活動を創っていく必要がある。

また、令和7年度最終学校アンケートでは、「友だちに嫌なことを言ったりしないようにしている。」という問いに、肯定的な回答は91%であった。日々の学校生活においても、子ども一人一人が互いに認め合い、いじめのない、人権が守られる取り組みを今後も続ける必要がある。

○自己肯定感、自尊感情の向上について

自己肯定感や自尊感情の向上は、本校の子どもにとっては長年の課題である。教職員は、子どもたちに様々な役割体験や小さな成功体験を経験させ、その度に称賛を与え、子どもたちに「やればできる。」という思いを積み重ねようと意図した取り組みを続けてきた。しかしながら学年が上がるにつれ、自己肯定感や自尊感情は低下する傾向にある。「委員会活動や係活動などをがんばり、人の役に立つことをしている。」という令和7年度最終の学校アンケートでは、肯定的に回答する子どもの割合が88%であった。ただし、数字以上に自己肯定感や自尊感情が向上したとは言い難い。今後も継続してほめることを中心として、自己肯定感を向上させる取り組みを進めていく必要がある。

○規範意識の向上について

学校アンケートにおいて「学校のきまりを守っていますか」という質問に肯定的な回答をする子どもの割合は90%を超えている。しかし、学校生活で子どもの行動を観察すると、学校の決まりが十分守られているとは感じられないと評価する教職員がほとんどである。教職員の意識と子どもの意識にズレが生じており、教職員全体で規律に関して共通理解を図り、よりきめ細かな指導をしていく必要がある。

○学力向上について

子どもたちが身につけなければならない学力の基礎的事項「読み」「書き」「計算」の習得に大きな課題がある。本校では継続して「基礎・基本」の取り組みを続けているが、令和7年度、当該学年で習得しなければならない内容の正答率が50%未満の子どもの割合は以下のとおりである。

	漢 字	計 算
1 年	6 %	0 %
2 年	10 %	3 %
3 年	37 %	17 %
4 年	8 %	3 %
5 年	24 %	28 %
6 年	34 %	15 %

令和8年度から、大阪教育大学附属平野小学校との共同研究により、「探究科」研究を進めていくことになった。この取り組みによって興味・関心をもって「話し合い活動」や「調べる活動」が向上することが予想できる。今後も基礎・基本の定着を図り、自ら進んで学習に取り組む子どもを育むための取り組みを行う必要がある。また、低位層の子どもたちは、遅刻や欠席が多かったり、

家庭学習が定着していなかったりするので、規則正しい生活を奨励し、自ら律する態度を身に付けさせる必要がある。

○体力向上について

令和7年度まで3年間にわたって「体育科」を校内研究の教科に据え、運動好きの子どもを育てる取り組みを続けてきた。「なわとび週間」や「かけあし週間」を設定し、意図的に運動を取り入れたり、運動場での遊びを奨励したりすることで子どもたちが体力向上に取り組む意識は醸成されてきている。しかし、コロナ禍による影響で、全体的に体力の低下がみられるようになった。今後は、体を積極的に動かす子どもの育成を積極的に行う必要がある。

○ICTを活用した教育の推進について

タブレット端末を積極的に活用して学習や活動をしていく必要があり、今後、子どもがICT機器を学習に利用している頻度、時間を伸ばしていく。

中期目標（概ね4年以内に達成すべき目標）

【安全・安心な教育の推進】

- 年度内の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- 年度内の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、現状を維持するか前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「自分に良いところがあると思いますか。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「学校のきまりをきちんと守っていますか。」の項目について、肯定的な回答をしている児童の割合を90%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「友だちに嫌なことを言ったり、しないようにしている。」の項目について肯定的な回答を90%以上を毎年、維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を使い、デジタル教材や家庭学習等を週数回実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を65%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（①出席日数の増加②ICTの活用による本人または保護者とのつながる回数③養護教諭及び外部機関とのつながり等）

学校園の年度目標

- 年度内の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 年度内の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度と同じか減少させる。
- 年度内の校内調査において、「係活動などをがんばり、人の役に立つことをしている。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。
- 年度内の校内調査における「学校のきまりをきちんと守っている。」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「友だちに嫌なことを言ったり、しないようにしている。」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比）を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 1 ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

学校園の年度目標

- レディネステストなどを基に児童の実態を把握し、基礎・基本の定着を図るために指導に取り組み、算数科の単元テストにおいて、数と計算領域の正答率 50%未満の児童を 15%以下にする。
- 年度内の校内調査において、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答の割合を 90%以上にする。
- 年度内の校内調査において、「体を動かす運動（走る、跳ぶ、投げる）をよくしている。」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 学習者用端末を使い、デジタル教材の使用や家庭学習等を週数回実施する。
- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を70%以上にする。

学校園の年度目標

- デジタル教材を活用した学習を週数回実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を60%以上にする。

【その他】

学校園の年度目標

- 年度内の校内調査において、「学校へ行くことが楽しい。」の項目について、児童の割合を 80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。

大阪市立喜連東小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・中学校) ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 95%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(①出席日数の増加②ICTの活用による本人または保護者とのつながる回数③養護教諭及び外部機関とのつながり等) 学校園の年度目標 ○年度内の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ○年度内の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度と同じか減少させる。 ○年度内の校内調査において、「係活動などをがんばり、人の役に立つことをしている。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。 ○年度内の校内調査における「学校のきまりをきちんと守っている。」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。 ○年度内の校内調査において、「友だちに嫌なことを言ったり、しないようにしている。」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめ対策委員会で校内の状況を全教職員で共通理解し、対策を講じる。また毎学期、「いじめに関するアンケート」を実施する。 指標 いじめについてのアンケートにおける「あなたは今のクラスになって、いじめられたことはありますか。」という項目について、「ある」と答えた児童に対して聞き取りを行い、そのいじめが解決した割合を 95%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導連絡会で校内の不登校児童の状況を全教職員で共通理解し、対策を講じる。 指標 不登校児童の状況を全教職員で共通理解する場を毎月 1 回以上設ける。	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 児童の自己肯定感・自己有用感の改善に向け、委員会活動や学級での係活動などの充実を図る。 指標 児童アンケートにおける「委員会活動や係活動、当番の仕事をがんばり、人の役に立つことをしている。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。	

取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 学校生活のきまりを守ることについて、生活目標を設定する。また、靴の履き替えや、安全な廊下、階段の歩行等について啓発し、きまりを守ろうとする意識の向上に努める。 指標 児童アンケートにおける「あなたは、学校のきまりをまもっていますか」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を75%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 ◎＝目標達成状況 ○＝取組の進捗状況 ●＝課題 △＝今後の取組	
Empty space for analysis and progress tracking	

大阪市立喜連東小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小・中学校) ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比)を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。 学校園の年度目標 ○レディネステストなどを基に児童の実態を把握し、基礎・基本の定着を図るために指導に取り組み、算数科の単元テストにおいて、数と計算領域の正答率 50%未満の児童を 15%以下にする。 ○年度内の校内調査において、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答の割合を 90%以上にする。 ○年度内の校内調査において、「体を動かす運動(走る、跳ぶ、投げる)をよくしている。」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 一斉授業、T.T 指導、習熟度別少人数指導、個別指導など、学習内容に応じて学習形態を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。 指標 レディネステストなどを基に児童の実態を把握しながら指導に取り組み、算数科の単元テストにおいて、数と計算領域の正答率 50%未満の児童の割合を 15%以下にする。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 全教員が学びを楽しむ児童の育成をめざして、一回以上の研究授業を行う。 指標 研究授業の後にアンケートを実施し、「もっと学習したいと思いましたか。」という質問に対して、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と答える児童の割合を 80%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 教員の指導力向上をめざし、校内研修(メンター研修、教科領域主任研修会等)を企画し、計画的に実施する。 指標 校内研修計画を作成し、計画的に年 8 回以上の研修会を実施する。	
取組内容④【基本的な方向 4 健やかな体の育成】 なわとび週間やかけあし週間等を活用し、体力向上の意識を高める。	

指標 シャトルランの記録を、年度当初の記録より平均で３回以上向上させる。 （１・２年生は 50m 走の記録を年度当初より向上させる。）	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 ◎＝目標達成状況 ○＝取組の進捗状況 ●＝課題 △＝今後の取組	

大阪市立喜連東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小・中学校） ・学習者用端末を使い、デジタル教材の使用や家庭学習等を週数回実施する。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を70%以上にする。 学校園の年度目標 ○デジタル教材を活用した学習を週数回実施する。 ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を行う。	
指標 児童が学習の際、タブレットを使用した回数を週2回以上にする。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づく取組を行っていく。（時間外勤務時間を月45時間以下、年360時間以下にしていく。）	
指標 学校園における「働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 ◎＝目標達成状況 ○＝取組の進捗状況 ●＝課題 △＝今後の取組	

大阪市立喜連東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 学校の年度目標 ○年度内の校内調査において、「学校へ行くことが楽しい。」の項目について、児童の割合を80%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を75%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 人格形成の基礎を培うため、「自分」で「自分」を見つめる機会を設けたり、本物に触れ合う機会を設けたりして、豊かな情操を醸成する。 指標 児童アンケート「学校へ行くことが楽しい。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を前年度以上にする。	
取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】 学校図書館の開館を保証し、館内環境整備を行うことにより、子どもたちが進んで読書活動をする環境を整える。 指標 児童アンケートで「読書は好きですか。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える児童の割合を75%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 ◎＝目標達成状況 ○＝取組の進捗状況 ●＝課題 △＝今後の取組	